

産地戦略

実施期間 令和6～10年度

実施主体 あわら坂井グリーン農業普及拡大協議会
 都道府県 福井県
 対象地域 あわら市、坂井市
 対象品目 大豆



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
● 化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

あわら市・坂井市では、これまで緑肥を活用した米づくりなど環境にやさしい農業を展開してきた。SDGsが社会的に認知されている中、農業分野においても社会貢献が必要になっており、これまで以上に環境にやさしい農業が求められている。しかし、これまでの環境にやさしい農業は労力が過大で、なかなか普及拡大に繋がってこなかった。

そこで、環境にやさしい農業に省力化や低コスト化をプラスして取り組みやすくした技術を「グリーンな栽培体系」として位置づけ、農業者へ推進すること、あわら市・坂井市における環境にやさしい農業の普及拡大を図る。

大豆においては、本事業で実証した、有機質資材（鶏糞）を活用した化学肥料使用量削減技術の普及拡大を目指す。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名		土改材散布	播種・施肥	培土①	培土②	病害虫防除①	病害虫防除②	病害虫防除③	病害虫防除④		収穫		
技術名			播種同時施肥										



グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名		土改材散布	鶏糞散布	播種	培土①	培土②	病害虫防除①	病害虫防除②	病害虫防除③	病害虫防除④		収穫	
技術名			全層施肥										

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R5	目標R10	備考
(参考) 対象品目の作付面積 (ha)	1,009	▶ 950	
グリーンな栽培体系の取組面積 (ha)	0.8	▶ 50	
環境にやさしい栽培技術の取組面積 (ha)	0.8	▶ 50	
省力化に資する技術の取組面積 (ha)		▶	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	基肥として化学肥料を施用	▶ 基肥として鶏糞を施用	化学肥料使用量の削減
		▶	

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境	化学肥料の使用量 (kg/10a)	20	▶ 0	
			▶	
			▶	
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する
 (有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする)

* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

大豆栽培講習会や農業者大会等で実証結果を農業者に周知するとともに、有機質資材の活用に関心のある農業者に個別に技術導入を推進することで普及・定着を図る。

関係者の役割

関係者名	坂井農林総合事務所	JA福井県坂井営農経済センター	あわら市、坂井市
役割	推進資料作成、技術の周知	技術の周知、個別推進	グリーンな栽培体系の推進、機械導入等支援

その他